

- この（ ）はいつか来た（ ）
あ、あ、そうだよ、
（ ）の花が咲いてる。
あの（ ）はいつか見た（ ）
あ、あ、そうだよ、
ほら、白い（ ）だよ。
この（ ）はいつか来た（ ）
あ、あ、そうだよ、
お母さまと（ ）で行つたよ。
あの（ ）もいつか見た（ ）
あ、あ、そうだよ、
（ ）の枝も垂れてる。

- | |
|--|
| |
|--|

- 《この道》の詩は、() によるもので、夏に旅した北海道の情景と、幼い頃の記憶を重ねて書かれたといわれている。作曲したのは() で、彼は東京音楽学校で教育を受け、() の手法を用いて芸術的な音楽作品をつくった。

- | 用語・記号 | 名称 | 意味 | 用語・記号 | 名称 | 意味 |
|---|----|----|---|----|----|
| p | | |  | | |
|  | | | mf | | |
| $\bar{p}$ | | | pp | | |
| $\bar{\bar{p}}$ | | |  | | |

- 日本語の歌を歌うときには、()を意識して明瞭に発音することが大切だが、そのことを意識するあまり、逆に()を強調しすぎたり、硬い発音になったりしないよう気を付ける。なるべく自然な()を意識しながら、言葉の()に気を配って歌う。
- 日本語の歌詞を美しく歌う発音するためには、「ガ行」の()と()を区別して歌うことが大切である。語頭や数字、強調するときは()、それ以外は()になる。例えば、『この道』の詩の「花が咲いてる」の「が」は()である。

- 1) 演奏を聴いたり歌ったりしながら、言葉の抑揚と旋律との関わりなど歌詞や音楽から気付いたことや感じ取ったことを下の表に書こう。【思・判・表/主】
- 2) 1) で書いたことを手がかりに、どのように歌いたいかを話し合ったり歌い試したりしながら考え、下の表に書こう。【思・判・表/主】

歌詞や音楽から気付いたことや感じ取ったこと	どのように歌いたいのか（表現の工夫）
例：前奏の同音連打の部分は静かに歩いているような感じがする。	例：前奏の連打音を引き継ぐように静かに歌い始めたい。

- | |
|--|
| |
|--|